

## 令和7年度人権教育に係る年間計画の取組状況について

## 1 概要

平成26年3月の「湯河原町いじめに関する調査委員会」調査報告書を受けて、平成26年度より本町において「人権教育に係る年間計画」を作成し、各学校での取組を始めました。

各学校は、本町の計画を基に、学校の状況や児童・生徒の実態、発達段階を踏まえたうえで、工夫した取組を行いました。また、取組及び実施後の振り返りと評価を月毎にまとめ、年3回の定期報告を受け、次年度の取組に向けた各学校の成果と課題を確認し合っています。

## 2 主な取組

## 町全体

毎年4月を「湯河原町人権教育月間」と位置付けて、学校を中心に人権教育に係る取組を重点的に行いました。例年、平成25年の事案について、湯河原町いじめに関する調査委員会の調査報告書等を職員で共有し、共通理解を図っています。朝会で校長や人権担当教諭から人権講話を行ったり、道徳の授業で「友情・信頼」、社会の授業で「基本的な人権の尊重」などについて取り上げたりしました。

また、例年8月に実施している人権教育研修を、人権教育月間である4月に実施しました。令和7年度は、認定特定非営利活動法人 ReBit 齋藤洋一（ひろかず）さんをお招きし、「多様な性と私たち～SOGIE インクルーシブな学校環境づくりに向けて～」をテーマにご講演いただき、人権意識を醸成しました。

地域に対しても、湯河原中学校の美術部によって啓発ポスターを作製いただき、町内のさまざまな場所に掲出したりすることで、「人権」に対する意識を高めていただけるような取組としました。

今年度もA C T（アート コミュニケーション トレーニング）を各学校で実施しました。そこでは他者と関わりながら創造的・創作的な活動に取り組むことを通して、自分や他者を理解することで、よりよいコミュニケーションを学ぶ場としました。

『「人権」に関する川柳』も小学校5・6年生と中学校1～3年生を対象に募集し、人権について考える機会としました。令和7年度は、点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品が印刷したプリントをクリップファイルに入れ、小学校5・6年生、中学校1～3年生に配布しました。昨年度は、最優秀賞1点、優秀賞2点、努力賞4点の計7点を表彰することで、学校や地域の人権意識啓発に努めました。

さらに、いじめ問題対策連絡協議会や学校サポート会議等を活用し、各学校の状況や課題、及び取組や関係諸機関との情報を共有することで、よりよい児童・生徒指導をめざしています。

## 湯河原中学校

ハートフルウィークとして生徒と教員との丁寧な面談を定期的の実施しています。特に、2回目のハートフルでは、担任だけでなく、部活動の顧問も連携し、一人の生徒に対して多面的に関わることを意識しています。あわせてQ-Uアンケートや生活アンケートを実施し、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、生徒理解を深め、その後の指導・支援につなげることができています。

また、学校行事、生徒会活動、道徳の時間など、人権を意識した取組に留まらず、生徒が主体となる取組を通して、自己有用感の醸成につながるように工夫・改善が図られています。運動会では、勝ち負けにこだわることがないように指導し、3年生がリーダーシップを発揮しながら、励まし合って活動する姿がみられました。合唱コンサートでは特別支援学級の生徒も包摂する温かい雰囲気の中で活動したり、運動会の縦割りブロックで再び交流して高め合ったりすることができました。生徒会役員が主体となった取組である「いじめ検証会議」を実施し、「いじめはなぜ起きるのか、なくすためには学校はどう変わっていけばよいか」をテーマに生徒と教員が意見交換を行いました。生徒と教員が同じ目線に立って協議・協働して湯河原中学校を築いていくという共通意識を持つことができています。11月には、もと電動車いすサッカー選手をお招きし、人権講演会を行いました。

今後も「誰にとっても安心で安全で居心地の良い学校」となるよう、生徒と教員が共通意識をもって活動を続けていくことが必要です。

## 各小学校

担任と児童の個別面談の充実や、校長面談の実施、さらに、Q-Uアンケート、生活アンケートの実施による児童の多面的な実態把握に努め、児童が学校を、居心地のよい安心できる場所と感ずることができるよう努めました。

行事を再構築する中で、児童会を中心とした集会の企画・運営など、できる限りの児童の主体的な取組を通して、異学年が交流する機会を増やし、自己有用感や、他者と肯定的に関わる態度を醸成することができました。

また、各校の人権課題に合わせて人権研修の講師や、講話の内容、掲示物等を工夫することで、教職員や児童の人権意識を高めています。

児童や保護者の教育的ニーズや課題が複雑化、低年齢化している現状にあって、児童全員を対象としたスクリーニングを実施し、情報を共有することで、児童一人一人の発達段階や特性への理解を深め、必要に応じてスクールカウンセラー等と連携するなど、支援・指導をチームで行っています。児童指導委員会やフロアーミーティング、ケース会議等の校内体制及びその取り組み状況についてP D C Aサイクルに基づき、検証を深め、今後も児童の状況に即した取組となるよう努めていこうとしています。

年間計画策定における現状予測及びねらい・目的

| 月 | 現状予測                                                                                                                                                                                           | ねらい・目的                                                                                                                                                                                                                        | 提言               |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"><li>・平成25年4月10日の事案が、に年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。</li><li>・入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。</li><li>・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・平成25年4月10日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。</li><li>・新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。</li><li>・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。</li></ul> | ①<br>④<br>⑤<br>⑩ |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"><li>・新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。</li></ul>                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。</li></ul>                                                                                                                                       | ④                |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"><li>・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい（できない）思いが積み重なっていることがある。</li><li>・保護者は担任や学級の様子をわかり始めるが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」とためらう保護者もいる。</li></ul>                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉では表出しにくい（できない）思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握するとともに、保護者の思いについても把握するように努める。</li><li>・学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。</li></ul>                                           | ④<br>⑥           |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"><li>・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。</li><li>・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。</li></ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。</li><li>・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。</li></ul>                                                                                      | ③<br>④           |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"><li>・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。</li></ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。</li></ul>                                                                                                                                    | 支2               |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"><li>・夏休みを経て、児童・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい（できない）思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</li><li>・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。</li></ul>          | <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉では表出しにくい（できない）思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。</li><li>・担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。</li></ul>                                                                           | ⑥<br>④           |

| 月  | 現状予測                                                                                                                                                             | ねらい・目的                                                                                                                                                                                        | 提言     |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 10 | <ul style="list-style-type: none"><li>・運動会（小）、合唱コンサートや学習発表会（中）など、大きな学校行事が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。</li></ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事を通して、「みんなで一つのものを作り上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。</li></ul>                                                                                                | ④      |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"><li>・大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい（できない）思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</li></ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉では表出しにくい（できない）思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握する。</li></ul>                                                                                         | ⑥      |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"><li>・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。</li><li>・Q-U（第1回）から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。</li><li>・学校は、4～12月の取組を振り返る時期にある。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。</li><li>・学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。</li><li>・4～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。</li></ul> | ④<br>⑥ |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"><li>・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。</li></ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。</li></ul>                                                                                                       | ④      |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"><li>・新年度をあと数カ月で迎えるにあたり、児童・生徒の中には、表出しにくい（できない）思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</li></ul>                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉では表出しにくい（できない）思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握する。</li></ul>                                                                                         | ⑥      |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"><li>・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にあり、来年度に向けた体制づくりが必要となる。</li></ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の体制づくりや取組に生かす。</li></ul>                                                                                          | ③      |

## 参考資料①

### 令和7年度人権教育に係る年間計画に基づく取組報告について (令和7年4月～令和8年3月)

|         |    |   |        |
|---------|----|---|--------|
| 湯河原小学校  | 1  | ～ | 12 ページ |
| 吉浜小学校   | 13 | ～ | 24 ページ |
| 東台福浦小学校 | 25 | ～ | 36 ページ |
| 湯河原中学校  | 37 | ～ | 48 ページ |

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                                        | 具体的方策                                                                                                                                                | 留意点                                                                                                                           | 振り返り・評価                                                                               | 提言          |
|----|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 4月 | ・平成25年4月10日の事案が、年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。 | ・新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。                        | 「湯河原町人権教育月間」に合わせて次の取り組みを行う。<br>①道徳の授業で「人権」に関わりの深い項目を扱う。<br>②学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容(SST等)を教職員が実施する。<br>③始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。 | ①「命」「いじめ」に特化しすぎることの弊害も予想して、単元を計画する。(とても重要なことであるが、単純に「命を大切に」⇒「自死の否定」とならないように)<br>②単発な話で終わらせることなく、クラスで必ず担任が振り返りの時間を作り、その内容を深める。 | ①道徳の授業で一人一人が違うことや命の大切さについて扱った。<br>②心が豊かになるような読み聞かせ活動を行った。<br>③人権朝会を開き、校長が人権に係る講話を行った。 | 1<br><br>支1 |
|    | ・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。       | ・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。 | ○4月の早い時期に、十分に時間を取り、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、全教職員で共通理解を図る場を設定する。                                                                    | ○一回で不十分な場合は、十分に共通理解が図れるまで、繰り返し実施する。<br>また、形式的な伝達に留まらないよう、教職員同士の望ましい人間関係づくりを実現するための方策(例:会議の席次を意図的に設定する等)も示す。                   | 職員会議で児童指導の方針を確認した。「いじめ防止等対策マニュアル」のファイルを配付して手元に置き、いつでも確認できるようにした。                      | 5<br>10     |

※毎月行うこと

- ①児童・生徒指導のまとめを、町教委へ報告(学校巡回訪問時に提出)。  
(様式は、別紙参照。)

令和7年度

※いじめ事案発生時に行うこと

- ①まずは、第一報を町教委へ。(電話またはメール)  
②後日、紙面にて町教委へ報告。

※その他

- ①「人権」及び「いじめ」に係る、児童・生徒対象の講演会を、各学校の人権教育年間計画に入れ、実施する。

【町①】学びづくりを基盤とした授業改善:

予算化、小中教員の授業参観交流→支2

【町②】子どもフォーラム:あり方について検討する→支4

【町③】ACT:予算化→支6

【町④】地域への啓発・発信:情報発信→8、支9

【町⑤】関係諸機関との連携:指導主事がパイプ役→支10

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                          | 具体的方策                               | 留意点                                                                                                                                                                                                                         | 振り返り・評価                                                                                      | 提言 |
|----|------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 5月 | ・新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。           | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。     | ○教育相談週間(第1回)を実施する。<br>○第1回Q-Uを実施する。 | ○児童・生徒と担任との1対1の教育相談を実施する。<br>担任との顔合わせというスタンスでよい。<br>したがって、時間を長くかけるのではなく「担任は相談にのってくれる、安心できる大人である」という印象を残すことが大切である。<br>相談内容については、データ化し、学年教職員や関係教職員で共有する。データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。 | Q-Uをもとに学級集団の状態や児童一人一人の意欲・満足感などを確認し、学年や教育相談Coと共有した。<br>さらに、個別のサポート会議を開き、個別の支援の方法について共通理解を図った。 | 4  |
|    | ・年度が改まり、関係諸機関のメンバーも多少の変動があり、新しい職場での状況も少し落ち着いた。 | ・全校児童に対する共通理解を図る。                               | ○児童指導全体会兼いじめ防止対策委員会を行う。             | ○配慮が必要な児童について、全職員で共通理解を図ることができるよう個人写真を見ながら行う。                                                                                                                                                                               | 5月は、支援シートに基づく教育相談を行った。スクリーニングを行ってから、児童指導全体会を開き、児童一人一人の理解を深め、効果的な指導事例や問題行動についての情報を共有した。       | 9  |
|    | ・学校支援ボランティアが始動して、少しずつ軌道にのり始める。                 | ・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。 | ○学校支援ボランティア全体会を行う                   | 学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。                                                                                                                                                                          | 担当教員が担任のニーズを把握し、ボランティアを要請し、協力して見守る体制を作ることができていた。ボランティアを有効活用することができている。                       | 支8 |

|    | 現状(予想)                                                    | 目的・ねらい                                                                                            | 具体的方策                               | 留意点                                                                                                                                                                                                                                     | 振り返り・評価                                     | 提言 |
|----|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|----|
| 6月 | ・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。<br>・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。 | ①いじめアンケート(第1回)を実施する。<br>②個別面談を実施する。 | ①書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談員が中心となり、学校がチームで対応する。<br>①集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | いじめアンケートで出てきた事案については個別面談を行い、聞き取りや対応を早急に行った。 | 4  |

|    | 現状(予想)                    | 目的・ねらい                                            | 具体的方策                          | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                                 | 提言 |
|----|---------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 7月 | ・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                    | ○保護者面談(教育相談)第1回を実施する。          | ○学校生活での様子や一人ひとりのよいところ、また課題などを温かい視点で伝える。<br>○保護者の思いを受け止め、真摯に対応する。  | 全児童対象の教育相談を実施した。これまでの教育活動の中での様子や成長を伝えたり、保護者からの相談を受けたりしながら児童理解に努めた。また、夏休みの過ごし方についても情報の共有をした。             | 4  |
|    | ・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。   | ・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。 | ○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | 教育活動全体を通して、児童一人ひとりの学びを大切にしたり、違いを意識したりして取り組めるよう、工夫することができた。今後も人権意識を常にもち、よりよい活動に向けて、役割分担や具体的な手立てを考えていきたい。 | 3  |

|    | 現状(予想)                                                                    | 目的・ねらい                                     | 具体的方策                      | 留意点                             | 振り返り・評価                                                          | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------|----|
| 8月 | ・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 | ・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。 | ○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。 | ○実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。 | 人権研修会、いじめ防止研修会を実施し、共通理解を図ることができた。研修により、児童理解を深め、学級経営を見直すことにつながった。 |    |



|    | 現状(予想)                                                        | 目的・ねらい                                      | 具体的方策                   | 留意点                                                                                                                       | 振り返り・評価                                                              | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----|
| 9月 | ・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。 | 個別面談週間(第2回)を実施する。       | ○児童・生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。 | 7月に教育相談週間を設定して得たことを、学級経営に生かすようにした。児童指導個別面談により、夏休み明けの子どもの様子を見取るようにした。 |    |
|    | ・自校の夏休み時の児童生徒指導に係る検証を踏まえ、他校と共有し、町全体として、その検証が必要となる。            | ・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。     | 学校サポート会議(実務者会第1回)に出席する。 |                                                                                                                           | 支援を行っている児童について、担任だけでなく、校内で情報共有をして対応について共通理解していくことが有効と確認できた。          |    |

|     | 現状(予想)                                                  | 目的・ねらい                                        | 具体的方策                                   | 留意点                                                                        | 振り返り・評価                                                                                                      | 提言 |
|-----|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 10月 | ・運動会など、大きな学校行事が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。 | ・学校行事を通して、「みんなで一つのを作り上げる」という意識のもと、学校行事を成功させる。 | ○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。 | ○学校行事の目的に、必ず「人権」の部分落とし込み、教職員間で共通理解する。学校行事を通じて、自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高める機会とする。 | 運動会のねらいに「仲間と力を合わせる楽しさ・達成感を味わいながら、より良い人間関係を築く」を入れ、指導した。互いに力を合わせて物事を創り上げていく機会となった。競技や応援で上学年が下学年をリードする姿が多く見られた。 |    |
|     | ・「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」がまとめられ、その検証が必要となる。      | ・不登校に特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。             | 学校サポート会議(実務者会第2回)に出席する。                 |                                                                            | 支援を行っている児童について、担任だけでなく、校内で情報共有をして対応について共通理解していくことが有効と確認できた。                                                  |    |

|     | 現状(予想)                                                             | 目的・ねらい                                                     | 具体的方策                     | 留意点                                                                                                                                                                                                                                    | 振り返り・評価                                                                                              | 提言 |
|-----|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 11月 | <p>・大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</p> | <p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。</p> | <p>○第2回Q-Uを実施し、面談をする。</p> | <p>○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br/>あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br/>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。<br/>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p> | <p>Q-Uアンケートを実施し、学級の児童の様子を探る。これをもとに個別面談を実施し、個々の児童の抱える困り感の解決に寄り添うよう努めた。</p>                            |    |
|     | <p>・学校支援ボランティアが半期の活動を終え、成果や課題が見えつつある時期である。</p>                     | <p>・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。</p>     |                           |                                                                                                                                                                                                                                        | <p>学校生活を送るうえで、悩みや心配を抱えている児童を見取り、サポートをしている。また、保護者から相談されたときにも、経過を観察し保護者に伝えたり随時面談を実施したりするなどの対応をとった。</p> |    |

|     | 現状(予想)                                               | 目的・ねらい                                             | 具体的方策                                 | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                | 提言 |
|-----|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 12月 | ・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。                            | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                     | ○保護者面談(希望者)を実施する。                     | ○保護者と教員の1対1で話す機会とする。必要であれば教育相談Coにも入ってもらう等の対応をとる。                  | 希望制で保護者面談を実施した。必要な家庭には働きかけた。それらも踏まえ、不安を抱えた児童へのサポートに努めた。                                |    |
|     | ・Q-U(第1回)から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。        | ・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。         | ○Q-U(第2回)をもとに児童指導全大会を開き、学校全体で情報を共有する。 | ○全職員で情報を共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。                          | 児童指導全体会兼いじめ防止対策委員会において、Q-Uの結果から状況と改善策を学年で話し合ったうえで、教育相談Coや管理職と共有した。                     |    |
|     | ・学校は、8～12月の取組を振り返る時期にある。                             | ・8～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。 | ○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。       | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | 児童指導全体会兼いじめ防止対策委員会を開催した。各学年の状況や児童の様子を伝え、教職員間で情報共有をした。学年間では、Q-Uの結果をもとに指導の在り方、手立てを話し合った。 |    |
|     | ・関係機関も含めたいじめに係る協力体制について、確認及び改善に向けて検証することが必要となる時期にある。 | ・情報共有に基づく協議を行い、来年度に向けての協力体制を維持する。                  | いじめ問題対策連絡協議会(第2回)に出席する。               | 「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の改善について協議を行う。<br>「いじめ」に特化した協議及び事例検討を実施する。        | いじめ問題対策連絡協議会(第2回)に校長が出席し、各団体と情報共有を図った。                                                 |    |

|    | 現状(予想)                                                        | 目的・ねらい                                                         | 具体的方策                               | 留意点                                                                                                                                                                                                                                                                     | 振り返り・評価                                                             | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----|
| 1月 | ・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・いじめの早期発見をし、言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ①いじめアンケート(第2回)を実施する。<br>②個別面談を実施する。 | ①書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談C。が中心となり、学校がチームで対応する。<br>相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。 | いじめアンケートの結果をもとに個別面談を実施した。面談等の時間を作り出すのが難しかったが、丁寧な対応でいじめ防止への取り組みができた。 | 4  |
|    |                                                               |                                                                |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                     | 9  |

|    | 現状(予想)                         | 目的・ねらい                                         | 具体的方策                                                                                                                          | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                                                                                                                 | 提言 |
|----|--------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 2月 | ・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にある。 | ・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。 | ○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。<br>○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>○支援シートを持つ児童の保護者と面談をする。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | 年間を通して、いじめアンケート、Q-U等を活用するとともに、日頃の子どもたちとの関わりやちょっとした会話から、様子や状況、心情を捉えるように努めてきた。また毎週の打ち合わせで学年の様子を報告し合うなど学校内での共通理解に努めた。面談や関わりの時間を生み出すのは簡単ではないが、児童理解を促進していきたい。また支援シートを効果的に活用できるように引継ぎをしていきたい。 | 6  |

|    | 現状(予想)                                                      | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                                         | 留意点                                                                                                                                                                                                              | 振り返り・評価                                                                        | 提言 |
|----|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|----|
| 3月 | ・新年度を迎えるにあたり、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ○一年間の振り返りやまとめの活動に取り組む中で、児童の様子や状況を見取り、思いを把握する。 | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | 日頃の見取りやいじめアンケートからの情報、児童指導案件の報告があったときに迅速に対応してきた。今後もいじめ防止マニュアルに従っての迅速な対応をしていきたい。 | 3  |
|    |                                                             |                                                     |                                               |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                | 9  |

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                                        | 具体的方策                                                                                                                                                                                                             | 留意点                                                                                                               | 振り返り・評価                                                                                                                                              | 提言          |
|----|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 4月 | ・平成25年4月10日の事案が、年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。 | ・平成25年4月10日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。      | 【町】「湯河原町人権教育月間」を設定する。<br>○教育長名で、各学校保護者に通知する。(相談窓口等も掲載する。)<br>○ポスターを作成し、町内に発信する。<br>○町HPに掲載する。<br>○学校訪問の際に、改めて教育委員会、学校が人権教育について取り組むべきことについて確認する。<br>○各校で平成25年4月10日の事案について共有する。<br>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。 | 各学校は「湯河原町人権教育月間」に係る4月の取組結果を、教育長に書面にて報告する。<br><br>【町】町及び各学校の状況を分析し、町及び各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。 | ○学級開きや道徳の授業で、「学級全員で目指したいもの」「大切にしたいもの」について考え、人権について触れることができた。<br><br>○「性的マイノリティの人権」を中心に、様々な人権問題について、マイノリティを支えるアライについて、ワークショップ等を通して考えた。                | 1<br><br>支1 |
|    | ・入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。          | ・新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。                        | ○人権担当から「人権」に係る内容の朝会を全校に向けて行う。また、各学級でふり返りを行い、「人権」について考える。<br>○始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭、学年主任や担任など、様々な立場の教職員から「人権」に係る講話及び説諭を行う。<br>○道徳の年間の重点項目として「人権」に関わりの深い項目を設定し扱う。                                             | ○単発な話で終わらせることなく、クラスや学年で必ず担任がふり返りの時間を作り、その内容を深める。<br>○「命」「いじめ」に特化しすぎることなく、相手も自分も大切にすることを意識させていく。                   | ○朝会では、人権担当が「人権」に係る講話を行った。昨年度に引き続き、「学年に関わらず共通理解しやすいもの」を意識して行った。保護者には、学校だよりやブログ、SNS等で、地域には回覧等で「湯河原町人権月間」であることを知らせた。<br>○学習参観日を設け、クラスの児童の様子を保護者に見てもらった。 | 4           |
|    | ・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。       | ・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。 | ○4月の早い時期に、十分に時間を取り、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、全教職員で共通理解を図る場を設定する。                                                                                                                                 | ○一回で不十分な場合は、十分に共通理解が図れるまで、繰り返し実施する。<br>また、形式的な伝達に留まらないよう、教職員同士の望ましい人間関係づくりを実現するための方策(例:会議の席次を意図的に設定する等)も示す。       | ○児童の実態を教職員全員で把握し、児童指導担当から「湯河原町吉浜小学校いじめ防止基本方針」が出され、今後の児童理解やいじめの予防・解決に努めるように教職員で共通理解を図った。                                                              |             |

## ※毎月行うこと

令和7年度 ①児童・生徒指導のまとめを、町教委へ報告(学校巡回訪問時に提出(様式は、別紙参照。))

## ※いじめ事案発生時に行うこと

- ①まずは、第一報を町教委へ。(電話またはメール)  
②後日、紙面にて町教委へ報告。

## ※その他

- ①「人権」及び「いじめ」に係る、児童・生徒対象の講演会を、各学校の人権教育年間計画に入れ、実施する。

- 【町①】学びづくりを基盤とした授業改善: 予算化、小中教員の授業参観交流→支2  
【町②】子どもフォーラム: あり方について検討する→支4  
【町③】ACT: 予算化→支6  
【町④】地域への啓発・発信: 情報発信→8、支9  
【町⑤】関係諸機関との連携: 指導主事がパイプ役→支10



|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                               | 具体的方策                                              | 留意点                                                                                                      | 振り返り・評価                                                     | 提言 |
|----|------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----|
| 5月 | ・新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。           | ・児童・生徒の意見を取り入れながら、学級の方向性や見通しをもてるようにし、児童・生徒に「安心感」を生む。 | ○教育相談(希望制)を実施する。<br>○人権教育月間についての本校の取り組み状況を把握、報告する。 | ○保護者と教員の1対1で話をする機会を設定し、家庭と学校で情報共有を図る。                                                                    | ○教育相談(希望制)を実施し、家庭や学校での児童の様子について情報共有をした。得た情報を児童の関わりに生かしていった。 | 4  |
|    | ・年度が改まり、関係諸機関のメンバーも多少の変動があり、新しい職場での状況も少し落ち着いた。 | ・情報共有に基づく協議を行い、「お互いに顔が見える関係づくり」を目指す。                 | 【町】いじめ問題対策連絡協議会(第1回)を開催する。                         | 【町】「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の周知を行う。<br>関係諸機関に、「学校に足を運んでください」という依頼を行う。<br>「いじめ」に特化した協議を入れる。また、前年度の人権教育に係る年間報告を行う。 | ○吉浜小の実態や取組を報告しつつ、他校や諸機関からの情報提供を受けた。今後の取組に生かしていくように努める。      | 9  |

|    | 現状(予想)                                                           | 目的・ねらい                                                                                            | 具体的方策                                                                              | 留意点                                                                                                                                                                                                                        | 振り返り・評価                                                                                                                                                                                                     | 提言 |
|----|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 6月 | ・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。        | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。<br>・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。 | ①生活アンケート(第1回)を実施する。県を参酌したアンケートのひな形を町教委が提示し、各校の状況にあったアンケートを作成する。<br>②Q-U(第1回)を実施する。 | ①②書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。<br>①集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業した後3年間、厳重に保管する。 | ○生活アンケートをもとに、児童全員と1対1で面談を行った。4・5月には把握できていなかった事案が分かることもあり、早急に対応することが可能となった。面談内容は、学年間は当然ながら、必要に応じて全職員で共有し、全職員で関わりをもてるようにした。<br>○児童の実態を考慮した上で、なかよし班編成を行っていった。<br>○Q-Uアンケートの結果から、クラス内の人間関係を担任が把握し、学級経営に生かしていった。 | 4  |
|    | ・保護者は担任や学級の様子がわかり始めるが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」という思いが芽生える時期である。 | ・保護者と顔を合わす機会を設け、日々の思いを把握する。                                                                       | ○学習参観日、PTAが中心になった清掃活動を行う。                                                          | ○児童が進んで活動できる学習、形態を工夫して行う。<br>○教員・保護者・児童が協力し、学校をきれいにする。                                                                                                                                                                     | ○学習参観日を設け、学校での児童の様子を保護者に見てもらった。                                                                                                                                                                             | 6  |
|    | ・次第に新しいクラスにも慣れ、お互いが気持ちよく過ごせる距離感や言葉遣いなどに対して意識が薄れてくる。              | ・県の推進委託事業である「『いのち』を大切に」を受け、年間を通して人権教育の取組を行う。<br>・お互いを守り合うためのコミュニケーションについての人権意識をもって考える。            | ○講師を招き、ブロックごとに人権教育講演会を行う。                                                          | ○発達段階や児童の実態を講師に伝え、それに合わせた講話の内容にする。<br>○学校の取組を、地域や保護者に周知するため、マチコミや学校だよりを通して、伝えていく。<br>○講演会のふり返りを各学級、各家庭でする。                                                                                                                 | ○学習参観日に合わせて行ったことで、地域の方や保護者も外部講師による人権教育講演会に参加し、学校が大切にしていきたいことについて共通理解することができた。児童の中に、「人権」という言葉がとても身近なものになりつつあり、よい人間関係を作っていく中で、大切なものだと考えられる子が増えてきている。                                                          | 8  |
|    | ・学校支援ボランティアが活動して、少しずつ軌道にのり始める。                                   | ・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。                                                   | 【町】学校支援ボランティアコーディネーター等連絡会議を開催する。                                                   | 【町】各学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。                                                                                                                                                                     | ○各学校の取組を聞き、ボランティアコーディネーターとさらによいボランティアの在り方について話し合った。                                                                                                                                                         | 支8 |

|    | 現状(予想)                    | 目的・ねらい                                            | 具体的方策                                                               | 留意点                                        | 振り返り・評価                                                                                                                     | 提言 |
|----|---------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 7月 | ・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                    | ○保護者面談(第1回)を実施する。                                                   | ○二者で行う。保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。             | ○教育相談は全保護者を対象に実施し、児童の様子や家庭での様子について情報交換した。児童や保護者の困り感について、お互いに協力していくことを確認できた。<br>○朝会の際、夏休みの過ごし方について、児童指導担当より、安心・安全な生活について話した。 | 4  |
|    | ・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。   | ・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。 | ○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>【町】各学校からの報告を、教育委員会定例会を経て、町長へ報告する。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。 | ○学校運営の中間反省を行い、それをもとに課題について個人、グループで改善方法を検討する。8月に全職員で確認する。                                                                    | 3  |

|    | 現状(予想)                                                                    | 目的・ねらい                                     | 具体的方策                              | 留意点                                                              | 振り返り・評価                                                                       | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|
| 8月 | ・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 | ・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。 | ○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。         | ○各学校の状況を分析し、各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。         | ○教職員向けの人権教育研修会で、日本ウェルネススポーツ大学教授・近藤卓氏を講師に招き、「自尊感情を高めるコミュニケーション」について講義をしていただいた。 | 支2 |
|    |                                                                           |                                            | 【町】いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。 | 【町】町及び各学校の状況を分析し、町及び各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。 | ○「性的マイノリティの人権」を中心に、様々な人権問題について、マイノリティを支えるアライについて、ワークショップ等を通して考えた。             | 支1 |

|    | 現状(予想)                                                          | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                                  | 留意点                                                                         | 振り返り・評価                                         | 提言 |
|----|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----|
| 9月 | ・夏休みを経て、児童・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ○学級・学年で夏休み明けの児童の様子をよく観察し、児童理解に努める。     | ○全職員で児童の様子を把握し、わずかな変化にも気にとめるようにする。打ち合わせなどで、気になる児童の様子を周知し、学校全体で児童を見守るように努める。 | ○児童一人ひとりの様子や児童同士の関わり合いを全職員で注意深く見ていった。           | 6  |
|    | ・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。   | ・友達と話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。                     | ○学習形態や活動の工夫をし、児童同士が温かい関わりができるような学習を行う。 | ○長期休業の家庭での過ごし方や生活環境の変化などに目を向ける。打ち合わせなどで、気になる児童の様子を周知し、学校全体で児童を見守るように努める。    | ○変化が見られた児童に関しては、学年で情報共有、対応の確認をし、打ち合わせで全職員に周知した。 | 4  |
|    | ・自校の夏休み時の児童生徒指導に係る検証を踏まえ、他校と共有し、町全体として、その検証が必要となる。              | ・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。             | 【町】学校サポート会議(実務者会第1回)を開催する。             | 【町】守秘義務のもと、個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。<br>町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。     | ○他校と情報交換を行うことができた。                              | 9  |

|     | 現状(予想)                                                                      | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                                               | 留意点                                                                                                                                                             | 振り返り・評価                                                                                    | 提言 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 10月 | ・大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。                 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ○生活アンケート(第2回)を実施する。<br>○アンケートをもとに、担任と児童一人ひとりが面談を行う。 | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、その対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。 | ○アンケート回収後、速やかに教育相談コーディネーターや管理職により確認を行った。指導や話し合いが必要な所は、その後の担任と児童との面談で行い、解決をした。              | 6  |
|     | ・運動会(小)、合唱コンサートや学習発表会(中)など、大きな学校行事が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。 | ・学校行事を通して、「みんなで一つのものを作り上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。      | ○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。             | ○学校行事の目的に、必ず「人権」の部分を落とし込み、教職員間で共通理解する。<br>学校行事を通じて、自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高める機会とする。                                                                                 | ○18日に運動会を実施した。縦割り班を中心とした動きの中で、学年に関わらず協力し合うことができた。学校の児童の実態を踏まえ、練習にかかる時間の縮小、徒競走の種目を選べるようにした。 | 4  |
|     | ・「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」がまとめられ、その検証が必要となる。                          | ・不登校に特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。                   | 【町】学校サポート会議(実務者会第2回)を開催する。                          | 【町】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を受け、守秘義務のもと個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。特に支援教育の視点から検証する。                                                                        | ○多くの方々に支えられていることを意識できた。                                                                    | 支5 |
|     | ・いじめ対策についての職員間の共有が必要となる。                                                    | ・いじめ・不登校の未然防止及び、発生時の対応について再確認する。                    | ○全職員で考え、いじめ対策委員会を検討、まとめたことを周知する。                    | ○全職員が共通理解し、同じ対応ができるようにする。                                                                                                                                       | ○いじめ・不登校の未然防止に対して共通理解し、意識を高めることができた。                                                       |    |

|     | 現状(予想)                                        | 目的・ねらい                                          | 具体的方策                                                            | 留意点                                                                                                                                    | 振り返り・評価                                                                                                                                                                                            | 提言 |
|-----|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 11月 | ・Q-U(第1回)から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。 | ・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。      | ○Q-U(第2回)を実施する。<br>○12月の世界人権週間に合わせて、人権担当から「人権」に係る内容の朝会を全校に向けて行う。 | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>○6月の人権教育研修会での話を受け、「言葉の遣い方」を中心に行う。 | ○QUアンケート(第2回)を実施し、児童の学校生活に対する意識把握が図れた。児童の集団生活に対する満足感や自己有用感などを測定した。前期に行ったものと比較し、学年間で必要な情報を共有した。次年度に向け、児童の状況把握や学級全体への指導へ役立てていこうと思う。<br>○絵本の読み聞かせや具体的な場面での言葉を言い換えるワークショップ等をリモートで行い、学年ごとに出た意見を全校で共有した。 | 6  |
|     | ・学校支援ボランティアが半期の活動を終え、成果や課題が見えつつある時期である。       | ・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。 | 【町】各校の学校支援ボランティアの活動について情報を共有する。                                  | 【町】各学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。                                                                                 | ○ボランティアがいることで、児童一人ひとりに丁寧な指導を心がけることができた。                                                                                                                                                            | 支8 |

|     | 現状(予想)                                               | 目的・ねらい                                             | 具体的方策                                                                | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                  | 提言 |
|-----|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----|
| 12月 | ・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。                            | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                     | ○保護者面談(第2回)を実施する。                                                    | ○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。                          | ○冬休みまでの児童の姿について情報交換した。必要によっては、教育相談コーディネーターが同席し、冬休み明けの指導や支援方法について確認をしあった。 | 4  |
|     | ・学校は、8～12月の取組を振り返る時期にある。                             | ・8～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。 | ○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>【町】各学校からの報告を、教育委員会定例会を経て、町長へ報告する。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | ○成果や課題、手立てを分析し、冬休み以降の指導の計画を立てた。                                          | 3  |
|     | ・関係機関も含めたいじめに係る協力体制について、確認及び改善に向けて検証することが必要となる時期にある。 | ・情報共有に基づく協議を行い、来年度に向けての協力体制を維持する。                  | 【町】いじめ問題対策連絡協議会(第2回)を開催する。                                           | 【町】「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の改善について協議を行う。<br>「いじめ」に特化した協議及び事例検討を実施する。     | ○不登校、いじめ、暴力行為のない学校づくりに向け、各校で情報・方法を共有し、方向性を確認した。                          | 9  |



|    | 現状(予想)                                                        | 目的・ねらい                                      | 具体的方策                                                                                          | 留意点                                                                      | 振り返り・評価                                                                                                                       | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1月 | ・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・担任とゆったりと時間を取って話をし、共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。 | ○年始の自己目標を立てたり、残りの学級生活についてみんなで話し合ったりする時間をとる。<br>○児童会事務局委員会の取組として、ありがとうメッセージを貼り出す大きな掲示板を校内に設置した。 | ・全職員で児童の様子を把握し、小さい変化も気にとめるようにする。<br>・学校全体で取り組むことの大切さやお互いの良さを実感する機会とする。   | ・冬休みが明け、児童個々の様子や児童同士の関わり合いを全教職員で注意深く見ていく。担任だけでなく、チームで取り組んだ。<br>・「ありがとうカード」を通して、児童一人ひとりの良さが全校に伝わったり、日頃の感謝を周りの人に伝えたりするいい機会となった。 | 4  |
|    |                                                               | ・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。     | 【町】学校サポート会議(実務者会第3回)を開催する。                                                                     | 【町】守秘義務のもとに、個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。<br>町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。 | ・学校内の状況を掴むことで体罰の根絶に役立った。<br>・不登校、いじめ、暴力行為のない学校づくりに向け、各校で情報・方法を共有し、方向性を確認した。                                                   | 9  |

|    | 現状(予想)                                                 | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                                                                                                                                          | 留意点                                                                                                                    | 振り返り・評価                                                                                                                                                         | 提言 |
|----|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 2月 | ・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にある。                         | ・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。      | ○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。<br>○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。                                           | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。                                                                             | ・必要に応じてケース会議を開いたり、児童指導委員会を開催したりした。毎週打合せの後に「児童指導」の時間を設けて全職員で情報や指導について確認をした。<br>・「児童・生徒指導方針」は、個別の聞き取り等、随時改善した。<br>・「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について次年度に向けて見直しを行った。 | 6  |
|    | ・今年度が残りわずかとなり、抱えている不安等について、表出しにくい(できない)が児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ・6年生を送る会の計画や取り組みを5年生を中心にしたなかよし班活動で実施する。<br>・ピンクシャツデー(いじめ撲滅運動)の実施について事前に知らせ、当日は教職員が進んで、ピンクの衣服を身につける。<br>・児童会目標「毎日笑顔」に向けた学校づくりにふさわしいスローガンづくりをする。 | ・これまで全校をリードしてくれた6年生に対して感謝の気持ちを伝える。<br>・ピンクシャツデーに向け、児童が作ったポスターを校内に貼り出した。<br>・全校児童、全職員、地域・保護者からスローガンに入れた言葉をアンケートして取り入れる。 | ・児童会を中心に、「6年生を送る会」を実施した。(寄せ書き作り・遊びの日)<br>・ピンクシャツデーを2月25日に全校児童・教職員で実施し、いじめのない学校づくりに向けて取り組んだ。<br>・「ありがとう」という言葉を中心にしたスローガンを作成した。横断幕作成の準備をした。                       | 6  |

|    | 現状(予想)                                                                                             | 目的・ねらい                                                                                           | 具体的方策                                                                                                                                                                                          | 留意点                                                                                                                                                | 振り返り・評価                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 提言 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、今年度の取組を振り返る時期にある。</li> <li>・来年度の方針、目標を確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習参観と学年懇談会(3月6日)を実施する。</li> <li>・学年ごとに一年間のふり返し、前学年の引継ぎ資料をもとにした学級編成を行う。</li> <li>・県の推進委託事業である『いのち』を大切にする心をはぐくむ教育推進研究』のまとめとしてスローガンの作成、横断幕を作る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の児童の様子、良いところや直すべきところを学校と家庭間で共有する。</li> <li>・多くの職員の目で編成について確認する。</li> <li>・全校へ向けて、スローガンを周知する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を新担任等にもしっかりと引継ぎ、新体制がスムーズに始められるようにしたい。</li> <li>・年度末になり、暴力を伴うトラブルが数件あったため、朝会を行い全校児童に指導、学級では朝会の内容を受けて、一人ひとりふりかえりカードを書いた。</li> <li>・横断幕を作成し、児童、職員だけではなく、地域・保護者にも本校の人権教育の取組について知ってもらうことができた。</li> <li>・朝会でも横断幕に書かれたスローガンを紹介することができた。</li> </ul> | 3  |

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                                        | 具体的方策                                                                                                                                                                                                             | 留意点                                                                                                                           | 振り返り・評価                                                              | 提言          |
|----|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------|
| 4月 | ・平成25年4月10日の事案が、年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。 | ・平成25年4月10日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。      | 【町】「湯河原町人権教育月間」を設定する。<br>○教育長名で、各学校保護者に通知する。(相談窓口等も掲載する。)<br>○ポスターを作成し、町内に発信する。<br>○町HPに掲載する。<br>○学校訪問の際に、改めて教育委員会、学校が人権教育について取り組むべきことについて確認する。<br>○各校で平成25年4月10日の事案について共有する。<br>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。 | 各学校は「湯河原町人権教育月間」に係る4月の取組結果を、教育長に書面にて報告する。<br><br>【町】町及び各学校の状況を分析し、町及び各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。             | ・新しく着任した職員に「湯河原いじめに関する調査」ファイルを読んでもらった。<br>・「人権月間」のポスターを各教室や昇降口に掲示した。 | 1<br><br>支1 |
|    | ・入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。          | ・新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。                        | ①道徳の授業で「人権」に関わりの深い項目を扱う。<br>②学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容(SST等)を教職員が実施する。<br>③始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。                                                                                             | ①「命」「いじめ」に特化しすぎることの弊害も予想して、単元を計画する。(とても重要なことであるが、単純に「命を大切に」⇒「自死の否定」とならないように)<br>②単発な話で終わらせることなく、クラスで必ず担任が振り返りの時間を作り、その内容を深める。 | ・各クラスで道徳の「命」に関する学習をした。<br>・クラス開きの場で担任の思いを述べたり、学級の目標を決めたりした。          | 4           |
|    | ・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。       | ・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。 | ○4月の早い時期に、十分に時間を取り、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、全教職員で共通理解を図る場を設定する。                                                                                                                                 | ○一回で不十分な場合は、十分に共通理解が図れるまで、繰り返し実施する。<br>また、形式的な伝達に留まらないよう、教職員同士の望ましい人間関係づくりを実現するための方策(例:会議の席次を意図的に設定する等)も示す。                   | ・各クラスにおいて、学校生活や活動のすべてで、人との関わり方を指導した。                                 | 5<br>10     |

## ※毎月行うこと

令和7年度 ①児童・生徒指導のまとめを、町教委へ報告(学校巡回訪問時に提出)。(様式は、別紙参照。)

## ※いじめ事案発生時に行うこと

- ①まずは、第一報を町教委へ。(電話またはメール)  
②後日、紙面にて町教委へ報告。

## ※その他

- ①「人権」及び「いじめ」に係る、児童・生徒対象の講演会を、各学校の人権教育年間計画に入れ、実施する。

## 【町①】学びづくりを基盤とした授業改善:

予算化、小中教員の授業参観交流→支2

【町②】子どもフォーラム:あり方について検討する→支4

【町③】ACT:予算化→支6

【町④】地域への啓発・発信:情報発信→8、支9

【町⑤】関係諸機関との連携:指導主事がパイプ役→支10

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                      | 具体的方策                      | 留意点                                                                                                      | 振り返り・評価                          | 提言 |
|----|------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----|
| 5月 | ・新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。           | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。 | ○QU(第1回)を実施する。             | ○Quを実施し、そこから見えてくる姿を分析する。<br>(日常での態度と比べながら児童理解の参考にする)                                                     | ・児童が回答したQUIについて各クラスで分析をした。       | 4  |
|    | ・年度が改まり、関係諸機関のメンバーも多少の変動があり、新しい職場での状況も少し落ち着いた。 | ・情報共有に基づく協議を行い、「お互いに顔が見える関係づくり」を目指す。        | 【町】いじめ問題対策連絡協議会(第1回)を開催する。 | 【町】「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の周知を行う。<br>関係諸機関に、「学校に足を運んでください」という依頼を行う。<br>「いじめ」に特化した協議を入れる。また、前年度の人権教育に係る年間報告を行う。 | ・打ち合わせの時間などを使って、学校全体の児童の様子を共有した。 | 9  |

|    | 現状(予想)                                                            | 目的・ねらい                                                                                            | 具体的方策                                                                                       | 留意点                                                                                                                                                                                                                                        | ・QUの分析会を行った。                                                                    | 提言 |
|----|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----|
| 6月 | ・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。         | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。<br>・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。 | ①生活アンケート(第1回)を実施する。<br>↑<br>県を参酌したアンケートのひな形を町教委が提示し、各校の状況にあったアンケートを作成する。<br>②Q-U(第1回)を実施する。 | ①②書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Co.が中心となり、学校がチームで対応する。<br>①集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | ・QUの分析会で各クラスの様子を職員に共有した。引き続き学校全体で見守っていく。<br>・困ったことないかなアンケートをもとに児童の面談を行い、支援を行った。 | 4  |
|    | ・保護者は担任や学級の様子をがわかり始めるが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」という思いが芽生える時期である。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、保護者の思いを把握する。                                                 | ○保護者アンケート(第1回)を実施する。<br>↑<br>県を参酌したひな形を町教委が提示し、各校の状況にあったアンケートを作成する。                         | ○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Co.が中心となり、学校がチームで対応する。<br>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した年度末に適切に処分する。                                                                                  | ・土曜参観の保護者アンケートを集約し、それぞれの意見をこれから生かすようにする。                                        | 6  |
|    | ・学校支援ボランティアが始動して、少しずつ軌道にのり始める。                                    | ・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。                                                   | 【町】学校支援ボランティアコーディネーター等連絡会議を開催する。                                                            | 【町】各学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。                                                                                                                                                                                     | ・読み聞かせ、水泳学習、花植えボランティアの方々に児童を見守っていただいた。                                          | 支8 |
|    | ・年度が改まり、関係諸機関のメンバーも多少の変動があり、新しい職場での状況も少し落ち着いた。                    | ・情報共有に基づく協議を行い、「お互いに顔が見える関係づくり」を目指す。                                                              | 【町】いじめ問題対策連絡協議会(第1回)を開催する。                                                                  | 【町】「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の周知を行う。<br>関係諸機関に、「学校に足を運んでください」という依頼を行う。「いじめ」に特化した協議を入れる。また、前年度の人権教育に係る年間報告を行う。                                                                                                                                       | ・「いじめ防止対策」だけでなく、不登校についてのケース会議を行った。                                              | 9  |

|    | 現状(予想)                    | 目的・ねらい                                            | 具体的方策                                                               | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                     | 提言 |
|----|---------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 7月 | ・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                    | ○保護者面談(第1回)を実施する。                                                   | ○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。                          | ・児童の学校生活の様子や成績について伝えることができた。                                                                | 4  |
|    | ・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。   | ・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。 | ○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>【町】各学校からの報告を、教育委員会定例会を経て、町長へ報告する。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | ・児童指導対策やケース会議を開くことで今後の対応を考えることができた。<br>・夏の研修として、講師をお招きして「ゲートキーパー養成講座」を行った。子供の話聞くことの大切さを学んだ。 | 3  |

|    | 現状(予想)                                                                    | 目的・ねらい                                     | 具体的方策                      | 留意点                                                      | 振り返り・評価                                                | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----|
| 8月 | ・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 | ・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。 | ○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。 | ○各学校の状況を分析し、各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。 | ○各クラスの児童の様子を振り返る。また、保護者との面談の内容を精査し、これからの教育活動に生かすようにする。 | 支2 |



|    | 現状(予想)                                                          | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                      | 留意点                                                                                                                                                                                                                          | 振り返り・評価                                             | 提言 |
|----|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----|
| 9月 | ・夏休みを経て、児童・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ○生活アンケート(第2回)を実施する。        | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。<br>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | ○児童や家庭について、長期休業中の様子や、学校が始まってからの様子を各クラスで確認し、共通理解をした。 | 6  |
|    | ・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。   | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。         | ①教育相談週間(第2回)を実施する。         | ①児童・生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。<br>生活アンケートを基にした教育相談を実施する。<br>相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。                                                                      | ○アンケートをもとにして児童に聞き取りをし、交友関係や学校生活についての確認をし、教職員で共有した。  | 4  |
|    | ・自校の夏休み時の児童生徒指導に係る検証を踏まえ、他校と共有し、町全体として、その検証が必要となる。              | ・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。             | 【町】学校サポート会議(実務者会第1回)を開催する。 | 【町】守秘義務のもと、個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。<br>町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。                                                                                                                                                      | ○各学校で、児童指導に対する情報交換をした。                              | 9  |

|     | 現状(予想)                                                                     | 目的・ねらい                                       | 具体的方策                                   | 留意点                                                                                      | 振り返り・評価                                                                      | 提言 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----|
| 10月 | ・運動会(小)、合唱コンサートや学習発表会(中)など、大きな学校行が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。 | ・学校行事を通して、「みんなで一つのもので上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。 | ○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。 | ○学校行事の目的に、必ず「人権」の部分を落とし込み、教職員間で共通理解する。学校行事を通じて、自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高める機会とする。              | ○運動会では、学年を超え縦割り班で協力することでお互いを認め合うことを学んだ。<br>○人権研修「いじめに関する研修」や「スクリーニング研修」を行った。 | 4  |
|     | ・「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」がまとめられ、その検証が必要となる。                         | ・不登校に特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。            | 【町】学校サポート会議(実務者会第2回)を開催する。              | 【町】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を受け、守秘義務のもと個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。特に支援教育の視点から検証する。 | ○各学校と情報交換を行った。                                                               | 支5 |

|     | 現状(予想)                                                                                    | 目的・ねらい                                                     | 具体的方策                                  | 留意点                                                                                                                                                                                                                                   | 振り返り・評価                                                                          | 提言 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----|
| 11月 | <p>・大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</p>                        | <p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。</p> | <p>○生活アンケート(第2回)を実施する。</p>             | <p>○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br/>あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br/>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談○が中心となり、学校がチームで対応する。<br/>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p> | <p>○キャリアパスポートでの振り返りをし、後期に生かせるようにした。<br/>○クラスの中でお互いに認め合いながら協力し学習報告会に臨むことができた。</p> | 6  |
|     | <p>・大きな学校行事を経て、児童・生徒に何らかの変化が生じ、保護者がそれをキャッチしたとしても、「これくらいで相談するのは…」という思いが根強く残っている可能性がある。</p> | <p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、保護者の思いを把握する。</p>  | <p>○保護者アンケート(第2回)を実施する。</p>            | <p>○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。<br/>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談○が中心となり、学校がチームで対応する。<br/>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p>                                                                     | <p>○アンケートの結果から、面談などを行い、児童の困り感を聞き出し、教職員間で把握し今後につなげていけるようにした。</p>                  | 6  |
|     | <p>・学校支援ボランティアが半期の活動を終え、成果や課題が見えつつある時期である。</p>                                            | <p>・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。</p>     | <p>【町】各校の学校支援ボランティアの活動について情報を共有する。</p> | <p>【町】各学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。</p>                                                                                                                                                                         | <p>○図書ボランティア・花植えボランティアなど様々な活動に協力していただきながら、活動の幅を広げることができた。</p>                    | 支8 |

|     | 現状(予想)                                               | 目的・ねらい                                             | 具体的方策                                                                | 留意点                                                                                                                                               | 振り返り・評価                                              | 提言 |
|-----|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----|
| 12月 | ・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。                            | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                     | ○保護者面談(第2回)を実施する。                                                    | ○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。                                                                                                          | ○保護者面談を実施した。(希望制)                                    | 4  |
|     | ・Q-U(第1回)から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。        | ・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。         | ○Q-U(第2回)を実施する。                                                      | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。 | ○11月中に実施したQUをもとにして、分析会を開き担任以外の職員にも情報の共有ができた。         | 6  |
|     | ・学校は、8～12月の取組を振り返る時期にある。                             | ・8～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。 | ○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>【町】各学校からの報告を、教育委員会定例会を経て、町長へ報告する。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。                                                                                 | ○学年末に向けて、児童同士のかかわりや、保護者との関係をしっかりと把握し、具体的な手だてを記録しておく。 | 3  |
|     | ・関係機関も含めたいじめに係る協力体制について、確認及び改善に向けて検証することが必要となる時期にある。 | ・情報共有に基づく協議を行い、来年度に向けての協力体制を維持する。                  | 【町】いじめ問題対策連絡協議会(第2回)を開催する。                                           | 【町】「湯河原町いじめ防止対策基本方針」の改善について協議を行う。<br>「いじめ」に特化した協議及び事例検討を実施する。                                                                                     | ○「人権教育・啓発に関する基本計画(第二次)」を確認した。                        | 9  |

|    | 現状(予想)                                                        | 目的・ねらい                                      | 具体的方策                      | 留意点                                                                                                                       | 振り返り・評価                                            | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----|
| 1月 | ・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、児童・生徒に「安心感」を生む。 | ○教育相談週間(第3回)を実施する。         | ○児童・生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。 | ○休み明けの児童の様子について、ブロックミーティングや打ち合わせの中で児童指導について共通理解した。 | 4  |
|    | ・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。     | 【町】学校サポート会議(実務者会第3回)を開催する。 | 【町】守秘義務のもとに、個人名を出した具体的な情報共有、協議を実施する。町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。                                                      | ○各学校の児童の様子を情報交換したり、その内容を校内で周知したりした。                | 9  |

|    | 現状(予想)                         | 目的・ねらい                                         | 具体的方策                                                                                                | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                                                                                       | 提言 |
|----|--------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 2月 | ・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にある。 | ・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。 | ○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。<br>○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | ○児童の実態を職員全体で把握するため、教育計画の見直しや支援シートのための保護者面談を行ったりした。その結果を教職員間で共有し次年度に生かしていけるように記録を残した。<br>○6年生を送る週間では「送る会」の実施、縦割り班での遊びを行い6年生への感謝の気持ちを伝えるとともに、学年を越えて中を深めることができた。 | 6  |

|    | 現状(予想)                                                      | 目的・ねらい                                              | 具体的方策                                                                                  | 留意点                                                                                                                                                                                                                          | 振り返り・評価                                                                    | 提言 |
|----|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----|
| 3月 | ・新年度を迎えるにあたり、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 | ○学年のまとめと次年度への引継ぎ事項をまとめる。                                                               | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。<br>あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。<br>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | ○今年度の取り組みを振り返り、来年度につなげるように資料を作成した。<br>○支援の必要な児童の情報共有した。(保育園・幼稚園での聞き取りも含めて) | 3  |
|    | ・教育委員会は、取組の点検及び評価を行わなければならない。                               | ・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。      | 【町】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条」に基づき、「いじめ防止」に係る取組の点検及び評価を行う。その結果と、管内各学校からの報告を元に、町議会にて報告する、 | 【町】「いじめ防止」に係る項目については、学識経験者の意見を最大限に活用し、毎年見直すことも必要である。<br>→教育委員会事務点検・評価委員会において協議する。                                                                                                                                            | ○児童間の些細な出来事も見逃さないように、学校全体で見守ることができるように改めて組織を見直した。                          | 9  |

|    | 現状(予想)                                         | 目的・ねらい                                                        | 具体的方策                                                                                                                                                      | 留意点                                                                                                                                                                          | 振り返り・評価                                                                | 提言      |
|----|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------|
| 4月 | ・平成25年4月10日の事案が、年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。 | ・平成25年4月10日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。      | ○人権教育月間のポスターを学校内に掲示する。<br>○新しく着任した職員に事案に関するファイル(紫)を渡し、平成25年4月10日の事案について生徒指導全体会にて共有する。<br>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修に参加する。                                  | 「湯河原町人権教育月間」に係る4月の取組結果を、教育長に書面にて報告する。                                                                                                                                        | 新しく着任した職員にも、平成25年4月10日の事案を把握させることができた。集合研修に参加し、SOGIEについて学ぶことができた。      | 1<br>支1 |
|    | ・入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。          | ・新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。                        | ①道徳の授業で「人権」に関わりの深い項目を扱う。<br>②学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容(SST等)を教職員が実施する。<br>③始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。<br>④「ハートフルウィーク」(教育相談週間)を全生徒を対象に実施する。 | ①「命」「いじめ」に特化しすぎることの弊害も予想して、単元を計画する。(とても重要なことであるが、単純に「命を大切に」⇒「自死の否定」とならないように)<br>②単発な話で終わらせることなく、クラスで必ず担任が振り返りの時間を作り、その内容を深める。<br>④聞き取った内容が指導・支援に十分にいかされるよう、学年会や教育相談部会等で共有する。 | 生徒の実態に合わせて、望ましい人間関係が築けるように各学年で工夫した。教育相談を実施し、学年や担当者部会で共有し対応を検討することができた。 | 4       |
|    | ・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。       | ・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。 | ○4月の早い時期に、十分に時間を取り、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、全教職員で共通理解を図る場を設定する。                                                                          | ○一回で不十分な場合は、十分に共通理解が図れるまで、繰り返し実施する。<br>また、形式的な伝達に留まらないよう、他学年とも情報共有をしている。                                                                                                     | 4月当初に方針とマニュアルについて確認し、共通理解を図ることができた。                                    | 5<br>10 |

※毎月行うこと

令和7年度 ①児童・生徒指導のまとめを、町教委へ報告(学校巡回訪問時に提出)。(様式は、別紙参照。)

※いじめ事案発生時に行うこと

- ①まずは、第一報を町教委へ。(電話またはメール)
- ②後日、紙面にて町教委へ報告。

※その他

- ①「人権」及び「いじめ」に係る、児童・生徒対象の講演会を、各学校の

【町①】学びづくりを基盤とした授業改善:

予算化、小中教員の授業参観交流→支2

【町②】子どもフォーラム:あり方について検討する→支4

【町③】ACT:予算化→支6

【町④】地域への啓発・発信:情報発信→8、支9

【町⑤】関係諸機関との連携:指導主事がパイプ役→支10



|    | 現状(予想)                                             | 目的・ねらい                                                   | 具体的方策                                                                       | 留意点                                                             | 振り返り・評価                                                    | 提言 |
|----|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----|
| 5月 | ・運動会に向けた練習が始まり慌ただしい日々を送る中で、様々な悩みやトラブル等が発生する可能性が高い。 | ・学校行事を通して人間関係を深める。                                       | ○運動会の目的に人間関係づくりの要素を盛り込み教職員、生徒で共通理解する。<br>○生徒の様子をよく観察し、声掛け、聞き取り、指導を行う。       | ○勝ち負けだけにこだわることはないように指導する。<br>○特別支援学級の生徒との交流を通して互いに学びがあるように指導する。 | 縦割りのブロックで3年生がリーダーシップを発揮し、励ましあって練習し競技に臨む姿がみられた。             | 4  |
|    | ・修学旅行や1, 2年の校外学習に向けた活動の中で、トラブル等が生じる可能性が高い。         | ・学校行事を通して人間関係を深める。                                       | ○修学旅行・校外学習の目的に人間関係づくりの要素を盛り込み教職員、生徒で共通理解する。<br>○生徒の様子をよく観察し、声掛け、聞き取り、指導を行う。 | ○不登校傾向、配慮を要する生徒が参加しやすい環境を整えるよう工夫する。                             | 修学旅行・校外学習では、多少のトラブルも起きたが、生徒と丁寧に向き合い、生徒も全体的に前向きに取り組むことができた。 | 4  |
|    | ・平成25年4月10日の事案が、年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。     | ・平成25年4月10日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。 | ○生徒会本部役員の生徒といじめ検証会議を実施する。                                                   | ○生徒が主体的にいじめ問題に取り組めるよう計画・実施する。<br>○教職員が生徒とともに取り組む姿勢をもつ。          | 生徒指導支援部、キャリアガイダンス部の職員と生徒会本部役員の生徒で今年度の活動計画について検討できた。        | 1  |

|    | 現状(予想)                                                                   | 目的・ねらい                                                                                                       | 具体的方策                                                                              | 留意点                                                                                                                                                                                                                                          | 振り返り・評価                                                   | 提言 |
|----|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----|
| 6月 | <p>・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。</p>         | <p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。</p> <p>・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。</p> | <p>①生活アンケート(第1回)を実施する。</p> <p>②Q-U(第1回)を実施する。</p>                                  | <p>①②書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。</p> <p>①集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p> | <p>生活アンケートの結果を学年で情報共有できた。記載があった内容について職員で連携し対応した。</p>      | 4  |
|    | <p>・保護者は担任や学級の様子をがわかり始めるが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」という思いが芽生える時期である。</p> | <p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、保護者の思いを把握する。</p>                                                     | <p>○保護者アンケート(第1回)を実施する。</p> <p>↑<br/>県のものを参酌したひな形を町教委が提示し、本校の状況にあったアンケートを作成する。</p> | <p>○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。</p> <p>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。</p> <p>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した年度末に適切に処分する。</p>                                                                      | <p>生徒の生活アンケートと同時期に実施した。学年(必要に応じて学校内)で情報を共有し、組織的に対応した。</p> | 6  |

|    | 現状(予想)                    | 目的・ねらい                                            | 具体的方策                          | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                      | 提言 |
|----|---------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----|
| 7月 | ・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                    | ○保護者面談(第1回)を実施する。              | ○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。                          | 保護者から情報提供があった事案に対し、組織的かつ迅速に対応できた。                            | 4  |
|    | ・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。   | ・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。 | ○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | 多様な教育的ニーズの生徒を包摂する教育活動を、職員一人ひとりがねらいや意義を捉えて行えるようにしていくことが求められる。 | 3  |

|    | 現状(予想)                                                                    | 目的・ねらい                                                             | 具体的方策                            | 留意点                                                                                  | 振り返り・評価                                                                          | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----|
| 8月 | ・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 | ・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。                         | ○hyper-QUについての職員研修会を実施する。        | ○6月のhyper-QUの結果をもとに、分析結果の読み取り方と学級経営へのいかし方の講演・ワークショップを実施する。実際に担任する生徒の実態について検討する機会とする。 | 各評価シートの読み取り方を理解することができた。学級担任・学年職員でグループ活動することにより、生徒理解が深まった。                       | 支2 |
|    | ・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。             | ・担当教員と話すことで生徒に「安心感」を生み、夏季休業明けのスムーズな登校につなげる。また、事案を早期に把握し迅速な対応につなげる。 | ○部活動に所属する生徒に対して教育相談週間(第2回)を実施する。 | ○生徒と顧問との1対1の教育相談を実施する。聞き取った内容が指導・支援に十分にかされるよう、学年会や教育相談部会等で共有する。                      | 夏休み中に部活動で活動した生徒について教育相談を実施することができた。学級ごとのシートに顧問が入力することによって学年にも情報を共有し対応にあたることができた。 | 4  |

|    | 現状(予想)                                                        | 目的・ねらい                                   | 具体的方策              | 留意点                                                                                                                                                     | 振り返り・評価                             | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----|
| 9月 | ・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、生徒に「安心感」を生む。 | ○教育相談週間(第2回)を実施する。 | ○生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する(夏季休業中に部活動で教育相談を行った生徒については任意)。<br>相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。 | 教育相談を実施し、学年や担当者部会で共有し対応を検討することができた。 | 4  |

|     | 現状(予想)                                             | 目的・ねらい                                           | 具体的方策                                   | 留意点                                                                                                                                                                                                              | 振り返り・評価                                                                       | 提言 |
|-----|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|
| 10月 | ・学習発表会が実施され、生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。       | ・学校行事を通して、「みんなで一つのものを上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。     | ○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。 | ○学校行事の目的に、必ず「人権」の部分を落とし込み、教職員間で共通理解する。学校行事を通じて、自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高める機会とする。                                                                                                                                      | 合唱では特別支援学級の生徒も包摂する温かい雰囲気の中で学級の練習が行われた。運動会の縦割りブロックのつながりを通じて他学年とも交流し高めあう姿がみられた。 | 4  |
|     | ・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、生徒の思いを把握する。 | ○生活アンケート(第2回)を実施する。                     | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | 生活アンケートの結果を学年で情報共有できた。記載があった内容について職員で連携し対応した。                                 | 6  |
|     | ・Q-U(第1回)から、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。           | ・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。       | ○hyper-QU(第2回)を実施する。                    | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームで対応する。                                                                | 生徒理解を深めるきっかけとなった。12月に再び研修会を行う予定である。                                           | 4  |

|     | 現状(予想)                                                                                   | 目的・ねらい                                                          | 具体的方策                                                            | 留意点                                 | 振り返り・評価                                                                                                         | 提言 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 11月 | ・生徒は自己のアイデンティティに悩みを抱える一方で、他者の心情や背景に心を寄せられない一面を持っている。特に、日頃関わるのが少ない相手や潜在的な問題について考える機会は少ない。 | ・生徒があらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働していく未来を描けるようにする、人権尊重の精神の涵養を図る。 | ○人権教育講演会を実施した。県福祉子どもみらい局共生推進本部室『『当事者目線の障がい福祉』に関する学校での出前講座』を活用する。 | ○県共生推進本部室と連絡をとりあい、講師への必要な対応を十分確認する。 | 生徒は講師の話を素直に受け取り、自己のアイデンティティに関する悩みに向き合うきっかけにしようという思いをもつことができた。「障がいがある人」と「障がいがない自分」という切り分けた見方自体がちがっていたと気づいた生徒もいた。 | 3  |

|     | 現状(予想)                                                                    | 目的・ねらい                                             | 具体的方策                                                                | 留意点                                                                                   | 振り返り・評価                                                    | 提言 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----|
| 12月 | ・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。                                                 | ・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。                     | ○保護者面談(第2回)を実施する。                                                    | ○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。                                              | 保護者から情報提供があった事案に対し対応している。                                  | 4  |
|     | ・冬季休業中であるため、教職員が、冬休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 | ・冬休み前までの取組をしっかりと振り返り、冬休み後の取組について研究と修養に努める。         | ○hyper-QUについての職員研修会を実施する。                                            | ○12月のhyper-QUの結果をもとに、分析結果の読み取り方と学級経営へのいかし方の講演・ワークショップを実施する。実際に担任する生徒の実態について検討する機会とする。 | 各評価シートの読み取り方を理解することができた。学級担任・学年職員でグループ活動することにより、生徒理解が深まった。 | 支2 |
|     | ・学校は、8～12月の取組を振り返る時期にある。                                                  | ・8～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。 | ○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。<br>【町】各学校からの報告を、教育委員会定例会を経て、町長へ報告する。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。                     | 職員一人ひとりが生徒理解を深めつつ、組織的に対応する体制を一層強化していくことが求められる。             | 3  |



|    | 現状(予想)                                                                             | 目的・ねらい                                             | 具体的方策                | 留意点                                                                                                                                                        | 振り返り・評価                          | 提言 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----|
| 1月 | ・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。                      | ・担任とゆったりと時間を取って、話をし共感し合うことで、生徒に「安心感」を生む。           | ○教育相談週間(第3回)を実施する。   | ○生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。<br>相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。                                 | 教育相談を実施し、学年や担当者部会で共有し対応することができた。 | 4  |
|    | ・大きな学校行事を経て、児童・生徒に何らかの変化が生じ、保護者がそれをキャッチしたとしても、「これくらいで相談するのは…」という思いが根強く残っている可能性がある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、保護者の思いを把握する。 | ○保護者アンケート(第2回)を実施する。 | ○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談○が中心となり、学校がチームとして対応する。<br>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | 学年(必要に応じて学校内)で情報を共有し、組織的に対応した。   | 6  |

|    | 現状(予想)                         | 目的・ねらい                                         | 具体的方策                                                                                            | 留意点                                                               | 振り返り・評価                                                                                                                              | 提言 |
|----|--------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 2月 | ・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にある。 | ・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。 | ○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。<br>○今年度の取組を振り返り、書面での報告を行う。 | ○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。<br>※報告様式は、本ファイルの様式とする。 | 生徒指導支援部とキャリアガイダンス部を中心に年間を通じて実態把握し組織的に対応することができた。また、いじめ検証会議や全校人権教育教室等の実施によって人権意識の啓発も行うことができた。来年度以降は人権教育に関わる資料をより有効活動していくことを課題としていきたい。 | 6  |

|    | 現状(予想)                                                  | 目的・ねらい                                           | 具体的方策               | 留意点                                                                                                                                                                                                                     | 振り返り・評価                                         | 提言 |
|----|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----|
| 3月 | ・新年度を迎えるにあたり生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 | ・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、生徒の思いを把握する。 | ○生活アンケート(第3回)を実施する。 | ○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。<br>記載内容については必ず教職員間で共有し、担任や教育相談Coが中心となり、学校がチームとして対応する。<br>集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。 | 生活アンケートの結果を学年で情報共有できた。記載があった内容について職員で連携し対応している。 | 3  |

学校及び教育委員会が執るべき措置への提言に対する具体的な取組について  
（「湯河原町いじめに関する調査委員会」調査報告書（平成 26 年 3 月 2 日）より）

【提言】

- ① 本件事故が起こった 4 月を、湯河原町の「いじめ防止・人権月間」のように位置付け、町内の小中学校で、本件を忘れないために、新年度のいじめ予防の方針を確認したり、「いじめ予防授業」や講演会などに取組むこと。
- ② 支援対策本部の提言を具体化するためのプロセスや財政的裏付けを検討すること。
- ③ 今回のいじめ対策を一過性のものとせず、継続と具体化の努力をすること。
- ④ 湯河原中学校が、生徒たちにとって、安心できる「居場所」となりうるよう意識した取組みをすること。
- ⑤ 教員間の連携を促進できる体制を速やかに確保すること。
- ⑥ 生徒や保護者の声を聴くためのアンケートは、しっかり目的を定め、記載内容は丁寧に拾い上げ、アンケート用紙の保管には十分に配慮をすること。
- ⑦ 町教育委員会の人的体制を充実させること。
- ⑧ 湯河原町は、いかなる児童・生徒を育みたいと考えているのかについて、子どもの最善の利益のため、宣言もしくは条例を制定して、全町民の共通の目標とすること。
- ⑨ 町教育委員会は、いじめ防止に関する対策の実践について、毎年検証を行い町議会に報告すること。また、町民が参加したいじめ対策協議会を設置すると共に、必要な費用を予算化すること。
- ⑩ 湯河原中学校は、スムーズな情報共有・情報連携のための校内システムを早急に確立し、また、毎年度末にいじめ防止の取り組みをまとめて町教育委員会に報告すること。
- ⑪ 支援対策本部の調査報告書及び本調査委員会の調査報告書をできる限り公開し、本事業の教訓を関係者で共有すること。

今後に向けての取組について  
（「湯河原中学校支援対策本部」調査報告書より）

○学校として

- 1 いじめ問題対策委員会の設置
- 2 教職員の資質の向上についての取組
- 3 教育活動の見直し
- 4 生徒指導の見直し
- 5 教育相談の見直し
- 6 部活動の見直し
- 7 家庭・地域・関係機関とのさらなる連携
- 8 小・中の連携

○町教育委員会として

- 1 教員研修の充実
- 2 学びづくりを基盤とした授業改善
- 3 指導主事の派遣
- 4 町子どもフォーラムでの啓発活動
- 5 町支援教育アドバイザーの活用
- 6 スクールソーシャルワーク・サポーターの活用
- 7 町学校サポート会議の取組み
- 8 町学校支援ボランティアコーディネーターとの協力
- 9 地域への啓発活動
- 10 関係諸機関との連携